



天 文 新 知 識

トロイ群の小遊星は十個となる

昨1931日ハイデルベルヒ天文臺のラインムット Reinmuth 氏が發見した小遊星はカ
イルステト氏の研究により、軌道要素は

$$\left. \begin{array}{ll} E = 1932 \text{ Jan. } 17.0 & \omega = 87.^\circ 0034 \\ M = 305.^\circ 0058 & \delta = 47.^\circ 0466 \\ \phi = 2.1893 & i = 32.9207 \end{array} \right\} (1932.0)$$

$$n = 294.^\circ 549 \quad \log a = 0.720566$$

であつて、全く一つの新しいトロイ群の小遊星と知れた、之れでトロイ群はアキレス
以來總計十個となつたわけである。即ち

番 號	名 稱	a	發見年	對木星經度
(588)	Achilles	5.2373	1906	+60
(617)	Patroclus	5.1898	1906	-60
(624)	Hector	5.1928	1907	+60
(659)	Nestor	5.2027	1908	+60
(884)	Priamus	5.2618	1917	-60
(911)	Agamemnon	5.1285	1919	+60
(1143)	Odysseus	5.1591	1930	-60
—	Aeneas	5.2178	1930	-60
—	Anchises	5.1037	1930	-60
—	(Reimmuth星)		1931	+60
	[木 星]	5.2028	—	—

因みに、 $\perp$ トロイ群とは、小遊星の中で、木星と殆んど同じ大きさの軌道を書き、
常に木星の前方又は後方約 60° の邊を運動してゐるものを言ふ。此等の星には皆ギリ
シャ古譚のトロイ戦争に關えた勇士たちの名を附してゐるのであるが、上表の十個の
うち、パトロクルスとヘクトルと名を取り換へて了へば、ギリシャ軍の勇士の名の
星は皆木星の東にあることとなり、トロイ軍の勇士は木星の西となる。

天體觀測に發聲映畫フィルム の 應用

一昨1930年4月28日米國西部に起つた皆既日食の際には、加州 Honey Lake へ出張
したキルソン山天文臺員はフォクス映畫會社の發聲フィルムを應用し、日食の景觀と
共に、時刻掛の呼ぶ毎秒の呼び聲を記録したといふ。此の結果は

豫告は 食甚が 19時5分53秒.1 皆既時間 1.4秒
 観測は 19 5 51.4 1.7
 其の差 1.7早過ぎ 0.2短か過ぎ
 であつた由.

特殊な白色矮星

米國 N.D. 州クリステン市のマクリオド N. W. McLeod 氏が指摘する所によれば、下に挙げる四つの分光連星は、皆珍しい白色矮星であつて、質量は非常に大きく、しかも光輝は非常に小さい、之れ等のはかのアトキンソン R. d'E. Atkinson 氏が言ふ如く、星の光りは水素がヘリウムに變化する際に餘分のエネルギーを放出するものであるとする進化説の證據とするに足るものであるかも知れないといふ。(P. A. 1932 Feb. & March)

星 名	スペクトル	温 度	絶對光級	質量函數	質 量	實視光級	視 差
29 CMa	O7e	19000°	-0.8	4.58	112 56		
13 μ Sgr	B8p	12000	-0.59	3.63	78 39	4.01	0.012
18 ν Gem	B5		-0.37			4.06	0.013
27 CMa	B5p				275	4.66	

マ ー フィールド 氏 逝 く

濠州メルボン天文臺主席助役マーフィールド C. J. Merfield 氏は昨1931年1月23日、自己が設計した日時計の建設のため故郷 Stawell へ向ふ途中、自動車事故で死去した。氏は早くより日食観測に名を挙げ、又1922年ボクトリヤ天文學會を起して、其の會長となつたこともある。

ヘ ー スチングス 老教授 逝去す

米國エール大學の名譽教授ヘー スチングス Charles Schadon Hastings 博士は去る 1月30日、コネチカト州グリニチの自宅で逝去された。博士は1848年の生れで、1884年から母校エール大學の物理學教授となり、1915年退任した人であるが、以前よりピッツバーク市のブラシア會社(後にマクドネル會社)の顧問となり、アレガニ天文臺の76センチ、エール大學南アフリカ出張所の66センチの兩大屈折望遠鏡、及び、カナダ領ボクトリヤ天文臺の183センチ大反射鏡など、米國製の多くの大天文器械は、博士が直接又は間接に設計監督したものであつた。